



2019年11月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2019年10月10日

上場会社名 川崎地質株式会社

上場取引所 東

コード番号 4673 URL <http://www.kge.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 坂上 敏彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員財務企画部長 (氏名) 土子 雄一

TEL 03-5445-2071

四半期報告書提出予定日 2019年10月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年11月期第3四半期の業績(2018年12月1日～2019年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年11月期第3四半期	5,200	2.4	62		15		11	
2018年11月期第3四半期	5,079	4.0	101		21		48	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年11月期第3四半期	13.52	
2018年11月期第3四半期	55.92	

当社は2018年6月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年11月期第3四半期	6,796	3,097	45.6	3,595.41
2018年11月期	7,560	3,144	41.6	3,659.06

(参考)自己資本 2019年11月期第3四半期 3,097百万円 2018年11月期 3,144百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年11月期		5.00		25.00	30.00
2019年11月期		25.00			
2019年11月期(予想)				25.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2018年6月1日付で普通株式5株について1株の割合で株式併合を行っております。2018年11月期第2四半期末は、当該株式併合前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2019年11月期の業績予想(2018年12月1日～2019年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,500	0.7	162	0.3	225	10.6	160	23.3	186.34

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年11月期3Q	1,057,980 株	2018年11月期	1,057,980 株
期末自己株式数	2019年11月期3Q	196,486 株	2018年11月期	198,542 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年11月期3Q	860,442 株	2018年11月期3Q	858,399 株

1. 当社は、2018年6月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。期中平均株式数(四半期累計)の2018年11月期3Qにつきましては、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

2. 当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、自己株式数には当該制度の保有する当社株式数が含まれております。また、株主資本において自己株式として計上されている当該制度に残存する当社の株式は、「1株当たり純資産額」の算定上、期末発行済株式総数より控除する自己株式に含めており、また、「1株当たり当期純利益」金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、後頁「1. 経営成績・財政状態に関する分析(1)経営成績に関する分析次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	6
3. その他	6
継続企業の前提に関する重要事象等	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①業績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境や企業収益の改善などを背景に、設備投資にも増加の動きが見られるなど、引き続き緩やかな回復基調で推移しました。一方、米国と中国の貿易不均衡問題に端を発した両国の追加関税措置や、英国の欧州連合離脱問題、アジア新興国等の経済の先行き、東アジア地域の政情不安、金融資本市場の変動の影響などによる世界経済の不確実性の影響もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社を取り巻く建設コンサルタントおよび地質調査業界におきましては、震災復興関連業務のほか、2018年12月に「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が国により策定され、特に緊急に実施すべきハード・ソフト対策については、3年間で集中的に実施することとされたことから、当該分野への投資が期待されますが、さらなる受注競争の激化が予想されます。

こうした状況の中、当社はコア技術を活かした点検、診断、維持対策工法検討など予防保全業務に注力するとともに、地質リスクに対応した保有・先端技術を活かした提案力をもって、震災および豪雨災害等の復興と国土強靱化推進業務をはじめとする自然災害・防災関連等の業務、道路・下水道維持管理をはじめとするインフラメンテナンス業務、再生可能エネルギー、海洋資源開発等、関連業務に全社員協力一致のもと取り組んだ結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、次のとおりとなりました。

受注高は、60億84百万円（前年同四半期比6.3%増）となりました。

売上高は52億00百万円（前年同四半期比2.4%増）、営業損失62百万円（前年同四半期は営業損失1億1百万円）、経常損失15百万円（前年同四半期は経常損失21百万円）、四半期純利益11百万円（前年同四半期は四半期純損失48百万円）となりました。

②売上高の季節的変動について

当社は、官公庁・公共企業体をはじめとする公共部門との取引率が高いことから、納期の関係もあり、売上高・利益ともに第2四半期と第4四半期に集中するという季節変動の傾向があります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産合計は、前事業年度末に比べ7億63百万円減少し、67億96百万円となりました。その主な増減内訳は、完成調査未収入金の減少10億70百万円、現金及び預金の増加4億33百万円等であります。

(負債)

負債合計は、前事業年度末に比べ7億16百万円減少し、36億99百万円となりました。その主な増減内訳は、短期借入金の減少6億円、調査未払金の減少2億6百万円、未成調査受入金の増加1億5百万円等であります。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べ47百万円減少し、30億97百万円となりました。その主な増減内訳は、利益剰余金の減少34百万円、その他有価証券評価差額金の減少18百万円等であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料に記載されている業績予想につきましては、2019年1月15日付発表「平成30年11月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の記載から変更はありません。なお、業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	514,530	947,559
受取手形	21,749	37,012
完成調査未収入金	2,594,198	1,523,873
未成調査支出金	935,151	919,978
材料貯蔵品	1,306	797
前払費用	50,299	47,457
その他	14,457	45,231
貸倒引当金	△262	△156
流動資産合計	4,131,430	3,521,753
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	496,204	577,592
機械及び装置(純額)	101,645	88,158
土地	1,570,075	1,505,183
その他(純額)	226,992	170,969
有形固定資産合計	2,394,917	2,341,904
無形固定資産	94,832	81,588
投資その他の資産		
投資有価証券	479,706	384,506
繰延税金資産	156,979	162,926
その他	306,895	308,248
貸倒引当金	△4,081	△4,081
投資その他の資産合計	939,500	851,599
固定資産合計	3,429,250	3,275,092
資産合計	7,560,680	6,796,846
負債の部		
流動負債		
調査未払金	609,747	402,748
短期借入金	2,200,000	1,600,000
1年内返済予定の長期借入金	100,000	100,000
未払法人税等	34,948	9,728
賞与引当金	—	93,600
未成調査受入金	207,624	313,131
その他	355,883	335,527
流動負債合計	3,508,204	2,854,736
固定負債		
長期借入金	200,000	125,000
退職給付引当金	547,779	560,254
その他	159,959	159,433
固定負債合計	907,739	844,688
負債合計	4,415,943	3,699,424

(単位:千円)

	前事業年度 (2018年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2019年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	819,965	819,965
資本剰余金	826,345	826,345
利益剰余金	1,946,158	1,912,047
自己株式	△558,567	△553,396
株主資本合計	3,033,901	3,004,960
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	110,834	92,461
評価・換算差額等合計	110,834	92,461
純資産合計	3,144,736	3,097,422
負債純資産合計	7,560,680	6,796,846

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)
売上高	5,079,560	5,200,407
売上原価	3,740,668	3,767,464
売上総利益	1,338,891	1,432,942
販売費及び一般管理費	1,440,569	1,495,133
営業損失(△)	△101,677	△62,190
営業外収益		
受取利息	200	178
受取配当金	11,103	10,120
受取手数料	12,040	9,005
固定資産賃貸料	45,881	46,286
受取保険金	30,117	—
その他	3,297	2,567
営業外収益合計	102,641	68,157
営業外費用		
支払利息	16,182	15,324
リース支払利息	5,745	4,613
その他	250	1,524
営業外費用合計	22,178	21,463
経常損失(△)	△21,214	△15,496
特別利益		
固定資産売却益	—	104,208
特別利益合計	—	104,208
特別損失		
固定資産除却損	0	0
投資有価証券売却損	—	25,138
特別損失合計	0	25,138
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△21,214	63,573
法人税等	26,787	51,943
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△48,002	11,630

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)

当社は、建設工事に関連する地質調査、土質調査を中心に環境・防災・海洋調査業務等を行い、これらに関連する測量、建設計画、設計等の業務および工事を営む単一事業の企業集団であることから、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)

当社は、建設工事に関連する地質調査、土質調査を中心に環境・防災・海洋調査業務等を行い、これらに関連する測量、建設計画、設計等の業務および工事を営む単一事業の企業集団であることから、記載を省略しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。